

序 文

本学は昭和26年以来、関係者各位の真剣な熱意と不断の努力とによって、農学に関する県立単科大学として研究に教育に独特の学風を樹立し、広く学会や産業界に、またとくに地域社会の発展に大きな貢献をして来たのは、まことに喜びにたえない。

本年はまさに本学創立15年目に当るが、その間内外の種々の苦難に耐え、いわゆる大学の谷間と称せられる公立大学の貧弱な研究費の現実を克服して、多くの貴重な業績を挙げられた教職員各位に対し、ここに改めて深く敬意と謝意を表する。

従来本学関係者の研究業績は島根農科大学研究報告（既刊14号「農学223編、林学85編、農林経済学51編、農業化学6編、農業工学3編、一般教育34編」）に発表されて来たが、目下本学は国立移管の途中であり、今回はとくに島根大学農学部などに移られた教官の研究報告をも掲載することとし、時あたかも本学創立15周年に当るので、15周年記念号として発刊することとした。いろいろの制約のもとに、こと志と異なる点が多いけれども、記念論文集としてこの方面のお役に立てば幸いである。

なお明年度以降、本報告に代るべきものは島根大学において編集発刊される予定であるが、研究者各位が本学の15年の歴史を顧み、かつ新しく国立大学という背景において、ますます研究され、さらに課題数、紙数を増すことはもとより、内容のより充実した研究報告を発刊されることを祈ってやまない。

上述のように本学研究報告は本号をもって一応終止符を打つこととなり、何となくものさびしい感にたえないが、本学研究報告を今日までこのように立派に育て上げて来たのは本学歴代学術委員会の格別の愛情と努力とによるものであり、偉大な足跡と言わねばならない。ここに記念号を発刊するに当り改めて委員長はじめ委員各位に深くお礼を申しあげる。

昭和41年12月20日

島根農科大学長

農学博士 梶 田 茂